

# 化学物質の管理

PRTR法に基づく適正管理を行うとともに、使用量の削減に取り組んでいます。

## PRTR対象物質の管理

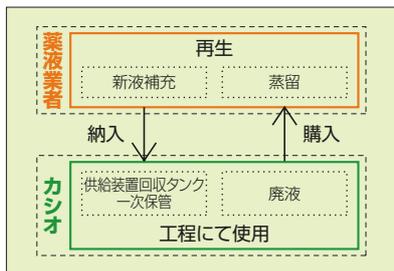
化学物質の管理については、化学物質を使用する事業所／拠点毎に環境管理組織を設け、その組織の中に化学物質に対する管理組織を組み込んだ体制を設けています。こうした体制のもと、PRTR対象物質は法に基づく管理を行い、適切に届け出を行っています。

また、薬液を多く使用する事業所においては、薬液の漏洩など緊急時を想定した対応訓練を実施しています。

### ■ 使用量・移動量の削減に向けた取り組み

デバイス生産工場における生産数量の大幅な増加にともない、使用するPRTR該当薬液が大きく増加しています。このため高知カシオ、カシオマイクロニクスおよび甲府カシオにおいて、薬液のリサイクル(アミノエタノール、フッ化水素およびその水溶性塩)などに取り組み、低減化を図っています。

### 使用済み薬液のリサイクル



## 代替フロン全廃

カシオでは、協力企業を含む全生産拠点で2004年末までに代替フロンの使用を廃止するとの目標を掲げ、活動に取り組んできました。2005年3月に、すべての協力企業での使用を廃止したことで、目標を達成することができました。

## PCB含有機器の保管

カシオでは、PCB含有機器の適切な処理を、2005年度末までに完了することを目標に掲げています。現在、処理の対象となるのは、八王子技術センター、羽村技術センター、甲府カシオにおける高圧コンデンサー(19個)と、照明器具に使用されていた小型安定器(258個)です。

これらについては、法律に沿った最適な保管とその届け出を励行しており、処理については各都府県の処理施設の計画に合わせてその処分を策定しています。

上記のうち、八王子技術センター、羽村技術センターでは、すでに日本環境安全事業(株)の東京都における処理委託の予約手続きを終え、処理施設の稼働を待つ状況です。甲府カシオ保管分については、法律で規定された処分区域の関係上、北海道で処理しなければ

ならないため、2007年の処理施設の完成を待つ状況です。

なお、海外拠点においては、PCBを保管・管理している拠点はありません。

## 鉛はんだ全廃

カシオでは、1999年にエコ電卓において鉛フリーはんだを初めて採用して以来、鉛はんだの削減に取り組んできました。2003年度には、全部門において鉛フリーはんだによる実装技術を確認し、2004年度末には全廃を完了しました。ただし、既に生産中止が決定しているモデルなど、一部に対象外としたモデルがあります。

なお、海外拠点における鉛はんだの使用量は以下のように推移してまいりましたが、2004年度末、鉛フリーはんだへの切り替えを完了しています。

海外拠点における鉛はんだ使用量の推移 (単位:トン)



## PRTR対象物質の移動と排出量

※表組みのなかで項目の合計が合わない場合がありますが、端数処理の関係です。

(単位:トン)

第一種指定化学物質名	物質番号	2003年度							2004年度						
		トン以上取扱事業所	取扱量	排出量		移動量 廃棄物	消費量	リサイクル量	トン以上取扱事業所	取扱量	排出量		移動量 廃棄物	消費量	リサイクル量
				大気	公共用水域						大気	公共用水域			
エチルベンゼン	40	1	11.71	3.55	8.16			1	9.37	2.48	6.90				
エチレングリコール*	43		2003年度使用薬品を見直し、1トン以上使用はなし							1	3.24		3.24		
キシレン	63	2	49.25	24.13	25.12			2	42.28	18.49	21.43	2.36			
オクチルフェニルエーテル	308	1	1.18				1.18	1	3.15		3.15				
酢酸2エトキシエチル	101	3	16.99	6.87	10.12			3	17.17	6.53	10.64				
チオ尿素	181	1	15.36		15.36			1	23.59	0.00	23.59				
銅水溶性塩	207	1	16.89	0.04	16.85			1	23.98	0.01	0.04	23.92			
トルエン	227		1.47	1.47					使用工程を外部委託しているため、グループ内での使用はなし						
フッ化水素及びその水溶性塩	283	1	13.30	0.07	2.59		10.62	1	9.60	1.92				7.68	
2-アミノエタノール	16	2	29.83	0.03	0.03		29.77	2	36.86	0.07	0.04	1.87		34.88	
合計			155.9	36.12	2.67	75.61	41.57		169.24	27.42	2.00	94.74	2.36	42.56	

\*エチレングリコールが2004年度に再度1トン以上になった理由は、カシオマイクロニクス(本社)における新規事業の立ち上げによるものです。